

秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	インターネット社会調査と多様化する情報端末		
研究代表者	渡部 諭	役職	教授
フリガナ	ワタナベ サトシ	学位	教育学修士
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	watanabe314@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)			
主な共同研究者(学外)	澁谷泰秀（青森大学社会学部）、小久保温（青森大学ソフトウェア情報学部）、吉村治正（奈良大学社会学部）		
研究の内容			
<p>本研究は、多様化するインターネットアクセスの情報端末が、インターネット社会調査へのどのような影響を与えるのかを調査するものである。</p> <p>近年、従来の社会調査の主流であった訪問調査が困難になり、郵送調査へ、そして更に将来はインターネット(Web 調査)へと移行せざるを得ない時代がやってくる。Web 調査に関する研究は、これまで他の方法との偏りを比較するものが多かったが、求められているのは、よりよいWeb 調査の実施方法である。</p> <p>従来、インターネットアクセスは、PC、ケータイが主だったが、最近、スマートフォン、タブレット端末が普及しはじめ、多様化している。Web 調査の場合、回答者はPC、ケータイ、スマートフォン、タブレット端末で回答する可能性があるが、これらはユーザーインターフェイスの使い勝手が全く異なり、それぞれの端末に適した画面デザインを行なったとしても、回答に要する労力は大きく異なる。Web 調査の場合、郵送調査などにはない特徴だが、アクセス解析の基盤技術を利用すると、回答過程を記録でき、所要時間や途中で回答をとりやめた場合の情報を取得でき、これはインターネット調査の改善に役立つ知見となる。</p> <p>われわれは、平成23-25 年の科学研究費補助金「郵送・インターネットによる実験的な職歴調査の実施」では郵送とインターネットにおいて、これまで困難と思われ、行われてこなかった「職歴」調査を研究する予定である。本研究では、更に踏みこんで、インターネットにアクセスする情報端末による影響を明らかにしたい。</p> <p>そこでわれわれ情報工学、社会学、認知心理学の研究者が共同で、それぞれの専門を活かし、社会調査などの入力項目が多いWeb アプリケーションにおいて、回答行為が情報端末によりどのような影響を受けるのかを明らかにすることにした。調査対象や回答項目は、吉村・渡部らがこれまで取り組んできた地方都市における「生活の質」や職業に関するものや国勢調査と比較可能なものとする。また、情報端末の所有状況も回答してもらおう。そして、アクセス解析技術などにより、情報端末の種類と回答過程を調査する。 (平成23年度電気通信普及財団助成金採択課題)</p>			

研究の独自性・アピール点

本研究により、スマートフォン・タブレット端末をなどの新しいデバイスを含む、多様な情報端末で、ユーザがどのような過程によりインターネットにアクセスしているのかを明らかになり、それぞれの端末に現状よりも適したWeb アプリケーションの入力方式などの研究開発が考えられる。更に、現状では端末の種別ごとに対応しており開発コストがかかるが、オブジェクト指向設計により、共通化可能な部分の抽出や個別に実装する部分を部品化するなどの研究開発も考えられる。

期待される成果・波及効果

社会学や心理学の社会調査としては、回答が忌避される箇所や情報端末による特性などに関する本研究の知見をもとに、来るべきスマートフォンやタブレット端末などが普及した時代に適した調査法を確立するための研究が考えられる。有効なWeb 調査法が確立された後には、それらを用いて、さまざまな社会調査の研究も考えられる。

関連する主な業績

逢坂翔平・小久保温、「HTML5+CSS3+jQuery によるパノラマ・ウォークスルーシステムOctPhotoVR の開発」、平成23年度第1 回芸術科学会東北支部研究会、2011.

キーワード

社会調査、Webアプリケーション、モバイル、情報端末、アクセス解析